

学校図書館セット貸出し

ヨーロッパセット

Europe

小学校高学年向

国立国会図書館

国際子ども図書館

この冊子は、学校図書館セット貸出し
「ヨーロッパセット」（小学校高学年向）
の解説です。

児童生徒を指導する際の参考にご利用
ください。

ヨーロッパとキリスト教

池上彰 著

岩崎書店 2006年

キリスト教信者の数は、現在世界で 20 億人といわれ、世界の三大宗教の一つに数えあげられている。なかでもヨーロッパでは、キリスト教徒が人口の大多数を占め、同一宗教を信じる共同体として、もの考え方や文化などが共有されている。よって、ヨーロッパを知る上で、キリスト教は大きな手がかりとなるであろう。キリスト教のおこり、聖書の教え、ユダヤ教やイスラム教との関わり、歴史、行事、芸術など、地図や写真を多く取り入れて子どもにもわかりやすいよう短く平易に解説した本。

ヨーロッパ発見 (なぞ!ふしぎ!世界の遺跡探検 3)

岩田一彦 著

理論社 2003年

世界の代表的な遺跡・遺物を紹介し、過去の文化や知恵を学ぶ全 5 巻シリーズの第 3 巻はヨーロッパ編。イタリアのコロッセウム (円形闘技場) や、ギリシアのアクロポリス (アテネの神殿など)、イギリスのストーンヘンジ (巨石群)、スペインのアルタミラ洞窟など、世界的にも有名な 11 の遺跡を取り上げている。地図やイラストを使って当時の様子が説明され、歴史や文化、当時の生活を知ることができる。

ヨーロッパをひとつに「欧州連合」

ジリアン・パウエル 著

ほるぷ出版 2003年

欧州連合 (EU) の設立の経緯・目的や、農業・貿易・金融など EU 内における共通の政策について、写真を使い、子どもたちにもわかりやすくまとめた本。巻末には、用語解説と欧州連合に関わる連絡先を掲載。

西洋服飾史 図説編

丹野郁 編著

東京堂出版 2003年

本書は、古代のギリシア・ローマの時代から、オートクチュールやプレタポルテの現代まで、西洋服の歴史を概観した専門書の図説編。他にテキスト版もある*。著者は服飾研究家。文章は専門的だが、カラー写真やイラストが豊富で、昔話に出てくるお姫さまを髷髻とさせる美しいドレスや髪型、装飾品を目で見て楽しむことができる。

*: セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

クリスマス・クリスマス

角野栄子 さく

福音館書店 1992年

今では日本にもすっかり定着している「クリスマス」。なぜケーキを食べるのか、なぜツリーを飾るのか…。こうした疑問が次々と明かされる。スウェーデン・フィンランドの「サンタクロース」の家訪問記など、興味深い内容が盛りだくさん。ヨーロッパのみならず、世界各地のクリスマスについても紹介されている。クリスマスをさまざまな角度からさぐり、祭りの本当の意味や人々の願いを伝える 1 冊。

魔女に会った

角野栄子 文・写真 みやこうせい 写真

福音館書店 1998年

『魔女の宅急便』*の作者が、魔女を知るためにドイツとベルギーの祭りに出かける。歴史ある魔女の祭りが、解説付きの豊富な写真で紹介されている。それぞれの地方の魔女に特徴があり、祭りの風習も興味深い。ルーマニアでは本物の魔女に出会い、現在の魔女の生活に触れる。

*: セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

ヨーロッパの家 4 (イタリア・ギリシア・ポルトガル)

樺山紘一 監修 和田久士 写真

講談社 2000年

カラー写真満載の『ヨーロッパの家』全 4 冊シリーズの最終巻である本書は、南欧のイタリア・ギリシア・ポルトガルから 50 軒の家を紹介。説明は大人向だが、各家の外部・内部の写真のほか、家並み全体を写した風景写真など、旅する気分を楽しむことができる。なお、

家屋は構造・材質により「石造」・「レンガ造」・「木造」・「木造と石造」の4つに分類されており、見出しの色で区別することができる。(凡例については p.4 参照) 第1巻はイギリス・アイルランド・北欧編、第2巻はフランス・スペイン編、第3巻はオランダ・ドイツ・スイス・オーストリア編。

ヨーロッパの街並と窓

勝井規和 著 和田久士 写真
クレオ 1998年

ヨーロッパ各都市の建物の窓に焦点を合わせた写真集。建物全体から窓の写真だけを取り出して見ると、そこに国民性が浮かび上がってくる。ドイツの窓ガラスはくすみなくピカピカに磨かれ、外の街並みが映りこんでいる。そこからドイツ人の几帳面な国民性が伺えよう。北欧諸国では、家の中に厳しい寒さが入り込んでくるのを防ぐため、窓が小さく二重窓で高い位置にある。カーテンの隙間や少し開いた窓から垣間見える、観光ガイドには載っていない人々の暮らしぶりを読み取って欲しい。

中世の城日誌

リチャード・プラット 文 クリス・リデル 絵
岩波書店 2003年

13世紀のイギリスの城の様子を、伯父の城で小姓として修行をする11歳の少年トビアスの日誌という形式で綴る。狩、竹馬あそび、パン作り、弓の練習、武術大会、騎士叙任式、宴会、病気の治療、刈り入れ、クリスマス、密漁者の裁判など、1年間の城の行事と生活が丹念に描かれている。城の内部の様子は緻密で、人物の表情は臨場感にあふれ見ごたえがある。巻末には、武器や攻城戦の紹介もある。

元気が出る！世界の朝ごはん 3

服部幸應、服部津貴子 監修
日本図書センター 2007年

各国の主な朝ごはんのレシピとそれらのメニューの栄養分析をした本書は、食育や環境問題に取り組む監修者が、朝ごはんを食べることの大切さをアピールするためにまとめたシリーズである。様々な国

の伝統的な朝ごはんが、食欲をそそる写真で紹介され、各国の食文化や食生活全般について知ることができる。レシピには、スクランブルエッグなど子どもたちにも簡単に作れるものから、手間隙のかかるパンやジャムの作り方まで紹介されている。ヨーロッパの食文化に親しくふれるためにぜひ挑戦してみたい。

ヨーロッパのお菓子 1 (どんな国? どんな味? 世界のお菓子 4)

服部幸應、服部津貴子 監修・著
岩崎書店 2005年

世界各国の伝統的なお菓子のレシピを紹介したシリーズ。ヨーロッパ編は全2冊。第1巻の本書では、クリスマスやイースターなど、キリスト教行事にちなんだ晴れの日の伝統菓子をはじめ、全10種類のお菓子のレシピが掲載されている。伝統的な製法に忠実なため、簡単には作れないものもあるが、難易度が示されており、作ってみる際の目安になる。

世界の料理いただきまーす。ースウェーデン・フィンランド

尾崎曜子 編+絵
アリス館 2004年

世界各国の郷土料理のレシピをわかりやすく紹介したシリーズ。各国の食文化はもちろんのこと、歴史や人々の暮らしについて簡単な解説が入る。「食」をきっかけに、他の国々への興味が広がることだろう。日本でも手に入れやすい食材でレシピを紹介しているので、さっそく作って食べてみたくなる。スウェーデン編では、じゃがいもを使ったボリュームたっぷりのサラダやアイスクリームを添えたりんごのケーキ、フィンランド編では、魚を使ったスープやサラダにアイスクリームを添えたパンケーキを紹介。

ヨーロッパ庭園紀行

勝井規和 写真 勝井悦子 文
クレオ 2000年

ヨーロッパ各地の庭園を宮殿とともに紹介した写真集。手入れの行き届いた生垣、四季折々の花々、さまざまなポーズをとる彫像や大小

さまざまな噴水など、ふんだんな資金をかけ、専門の庭師の手により計画的に造園された豪華絢爛な庭園を見て、往時のヨーロッパの貴族や富裕層の暮らしぶりを想像していただきたい。また、各国の庭園を国別にみていくと、個々の庭園の特徴がより浮き彫りになるだろう。

歌の絵本 2

芥川也寸志 編 安野光雅 絵
講談社 1979年

外国の曲に日本語の歌詞がつけられた唱歌集。「ちょうちょう」(スペイン)、「蛍の光」(スコットランド)など、今日でもなじみ深い歌30曲余りを収録。日本では、明治の西洋文明を吸収しようとする時期に、音楽教育用の教材として外国の曲が輸入された。それらに日本の風景や季節を詠った文学的な歌詞がつけられ、まるで日本古来の楽曲のように学校教育を通じて子どもたちの中に溶け込んでいった。よく知っている曲がヨーロッパのどの国から来たものかを調べてみると興味深いだろう。巻末に楽譜あり。

ヨーロッパとロシアの音楽

富浪貴志 監修 こどもくらぶ 編
ポプラ社 2003年

ヨーロッパを「ケルト」、「南部」、「中部・東部」、「北部」、「ロシア」の5つの地域に分けて、風土や歴史、民族的な特色などもまじえながら、各地の民族音楽を概説した本。歌や楽譜のほか、各地域の音楽に欠かせない民族楽器、その音楽に合わせた踊りや芸術まで幅広く紹介している。鮮やかな民族衣装に身を包み、踊りや歌を披露する人々の写真も豊富。CDがついているので、スコットランドのバグパイプやロシアのバラライカの音などを実際に聞いて、民族音楽の調べを楽しんで欲しい。

世界のスポーツ 3 (ヨーロッパ 2)

友添秀則 監修
学習研究社 2005年

ヨーロッパで生まれ、現在でも伝えられている、日本ではあまりなじみのないヨーロッパの民族スポーツを取り上げる。主に力の強さを

競うイギリス・スコットランド地方のハイランドゲームズ、スペインの闘牛、20世紀にフランスで生まれたボール競技のペタンクなど、それぞれのスポーツの歴史、ルール、エピソードを写真や挿絵をまじえながら紹介する。各々のスポーツの日本での活動についても触れられている。巻末に参考文献あり。

ヨーロッパの遊び (国際理解にやくだつ世界の遊び 3)

大貫美佐子 監修
ポプラ社 1998年

ヨーロッパ14か国の遊びを紹介するほか、「ヨーロッパのケンパ遊び」として、イギリス・ギリシャ・ルーマニアの3か国を比較。ヨーロッパの遊びの中には、日本の遊びと類似したものもあるが、多くは日本の子どもたちにとってなじみがないものであろう。遊び方がイラスト入りで詳しく紹介されているので、なにはともあれ実際に遊んでみたい。

なぞなぞ100 このほん

M.ブラートフ 採集 松谷さやか 編・訳 M.ミトゥーリチ 絵
福音館書店 1994年

「うまれたときからひげがはえているのはだれ?」、答えは「ねこ」。旧ソ連の昔話研究者が編んだ本より、100個のなぞなぞを選び、ロシアの代表的な画家であるミトゥーリチがイラストを描いた絵本。少し難しいなぞなぞもあるが、イラストが大きなヒントとなっている。答えはページの端に逆さまに記されている。巻末にはどの民族のなぞなぞかを示した一覧がある

北ヨーロッパの文字と言葉 (世界の文字と言葉入門 13)

森信嘉 監修・著
小峰書店 2005年

ロシアの文字と言葉 (世界の文字と言葉入門 14)

中澤英彦 監修
小峰書店 2005年

ギリシアの文字と言葉 (世界の文字と言葉入門 8)

岩崎務 監修・著

小峰書店 2004年

世界の文字と言葉を紹介するシリーズ。北欧編の第13巻では、「北欧5か国」のうち、語系の異なるフィンランド語を除いたノルウェー・アイスランド・スウェーデン・デンマークの4か国の言語を取り上げている。『子どもに語る北欧の昔話』*に登場する「ルーン文字」という古代文字で、自分の名前を書いてみようというコーナーや、4か国語の簡単なあいさつ文など、北欧の文字や言葉に楽しく触れることができる。第14巻はロシア編で、ロシアの昔話『おおきなかぶ』の一場面がキリル（キリール）文字で書かれ、さらに付属のCDでロシア語による朗読を聞くことができる。第8巻はギリシア編。古代ギリシアの時代から、数学や科学などの学問で使われてきたギリシア文字の歴史が詳しく説明されている。どの巻も、それぞれの国の文化にも言及しており、各国の文字と言葉を通して異文化への興味が広がる。

*:セットに含まれております。

ギリシア神話

石井桃子 編・訳 富山妙子 画
のら書店 2000年

古代ギリシアの人々が紡いだ数多の神話の中から、数々の優れた海外の児童書を翻訳紹介してきた石井桃子が、子どもにも読みやすい24の話を選んだもの。有名なパンドラの箱や、トロイア戦争の話のほか、生き物や自然現象の由来を語った神話など、さまざまなタイプの話が楽しめる。本文に先んじて、神話の成立した過程や神々についての概説が述べられている。

ドイツ・オランダ（きみにもできる国際交流 16）

増谷英樹 監修 こどもくらぶ 編・著 富盛伸夫 総監修
偕成社 2001年

国際交流の観点から世界の国を概説するシリーズ。言葉、街の様子や生活、文化、学校生活、遊び、児童文学、日本との関わりを紹介する。16巻はドイツ・オランダ編。ドイツ編では、ドイツで始まったシュタイナー学校や、環境問題への積極的な取り組みについて取り上げている。オランダ編では、風車の歴史や、チューリップ栽培について触れている。日本とオランダの交流は400年を越えており、「おてん

ば」、「ドロップ」など日本語として定着したオランダ語が紹介されている。

チェコ・ハンガリー・ポーランド（きみにもできる国際交流 21）

小原雅俊〔ほか〕 監修 こどもくらぶ 編・著 富盛伸夫 総監修
偕成社 2001年

国際交流の観点から世界の国を概説するシリーズ。言葉、街の様子や生活、文化、学校生活、遊び、日本との関わりを紹介する。21巻では、冷戦下で政治的に「東欧」と呼ばれ、地理的には「中欧」に位置する標記の国を取り上げる。チェコ編では、中世の街並みがあるままに残る首都プラハの様子や、内陸国であるために魚を食べない食生活、聖ミクラーシュの日（12月6日）の前夜から始まるクリスマスの習慣などが興味深い。ハンガリー編では、親から子へと代々受け継がれる花柄の民族衣装を着て行う復活祭の様子や、伝統的なダンスなどが写真付で紹介されている。ポーランド編では、幾度となく戦争の舞台になってきたものの独自の文化を守り続け、第二次世界大戦後復興を遂げた町の様子や、ポーランド出身の著名人として「ピアノの詩人」と呼ばれるショパンが紹介されている。

イギリス（きみにもできる国際交流 8）

中西輝政 監修 こどもくらぶ 編・著 中西輝政 シリーズ総監修
偕成社 2000年

国際交流の観点から世界の国を概説するシリーズ。言葉、街の様子や生活、文化、学校生活、遊び、児童文学、日本との関わりを紹介する。8巻のイギリス編では、日本でもおなじみのわらべうた「ロンドン橋」の遊び方や、サッカーやラグビーなどさまざまなスポーツの発祥の地がイギリスであること、紅茶をよく飲む習慣などが取り上げられている。

ジス・イズ・アイルランド

ミロスラフ・サセック 著 松浦弥太郎 訳
ブルース・インターアクションズ 2005年

チェコ出身の作者が、世界の都市を旅して描いた「ジス・イズ」シ

リーズの1冊。緑あふれるアイルランドを案内している。歴史、自然、古城、古代の石の建造物などが、しゃれた絵で紹介されている。原書は1964年の刊行だが、巻末で現在の情報が補われている。

わたしたちのトビアス

セシリア・スベドベリ 編 山内清子 訳
偕成社 1978年

トビアスは障害を持って生まれた男の子。普通とは少し違っているトビアスを4人の兄姉たちが受け止め、考えたことや感じたまを子どもたち自身の言葉と絵で表したスウェーデンの本。母が編集した。続編に『わたしたちのトビアス大きくなる』*、『わたしたちのトビアス学校へ行く』*がある。

*:セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

フランスの友だち（世界の友だちとくらし）

佐藤郡衛 監修
学校図書 2000年

パリの日本人学校の様子や、フランスの小学校での日常を中心に、フランスの子どもたちの暮らしを紹介する。あいさつや自己紹介など、知っていると便利な言葉や、遊び方なども解説。「パリの町の探検」の章では、町にあふれる印象的な芸術作品に触れながら、パリを散策しているかのような気分が味わえる。また、シャンパーニュ地方のぶどう園の様子を紹介し、豊かな農業国であることにも言及している。写真やイラストが豊富。

ハンガリーの子どもたち（世界の子どもたちはいま 23）

西村佐二 指導
学習研究社 2002年

I期からIII期まで24冊が刊行されている世界各地の子どもたちの暮らしを紹介するシリーズより、23巻の本書では、首都ブダペストの小学4年生の日常生活をとりあげる。学校生活の章では、「時間割」、「休み時間」、「登下校」、「給食」、「課外活動」、「教科書」、「かばんの中身」など、自分たちの学校生活と比較できる内容が盛りだくさん。家庭での様子は、「子ども部屋」や「食事」、「家族」、「遊び」な

どを教えてくれる。ハンガリーでは、3月の独立記念日に学校で式典が催されるが、その様子が興味深い。巻末には、「将来の夢」など75項目に及ぶアンケート結果が添付されている。

スペインの子どもたち（世界の子どもたちはいま 13）

西村佐二 指導
学習研究社 2001年

I期からIII期まで24冊が刊行されている世界各地の子どもたちの暮らしを紹介するシリーズより、13巻の本書では、世界遺産にも指定されているサラマンカの小学6年生の日常生活をとりあげる。学校生活の章では、「時間割」、「休み時間」、「登下校」、「給食」、「課外活動」、「教科書」、「かばんの中身」など、自分たちの学校生活と比較できる内容が盛りだくさん。家庭での様子は、「子ども部屋」や「食事」、「家族」、「遊び」などを教えてくれる。スペインでは、夕食前に家族や友人と散歩をする習慣があったり、セマナサンタ（聖週間）やコミュニオン（2度目の洗礼式）などの宗教的な儀式やお祭りが多かったりして、家族や親戚との結びつきが深い。巻末には、「将来の夢」など75項目に及ぶアンケート結果が添付されている。

イタリアの子どもたち（世界の子どもたちはいま 24）

西村佐二 指導
学習研究社 2002年

I期からIII期まで24冊が刊行されている世界各地の子どもたちの暮らしを紹介するシリーズより、24巻の本書では、トスカーナ地方シエナにある小学校に通う3年生の男の子と5年生の女の子の日常生活をとりあげる。学校生活の章では、「時間割」、「休み時間」、「登下校」、「給食」、「課外活動」、「教科書」、「かばんの中身」など、自分たちの学校生活と比較できる内容が盛りだくさん。家庭での様子は、「子ども部屋」や「食事」、「家族」、「遊び」などを教えてくれる。また、現地の小学生の目から見た国の歴史や観光案内もある。イタリアでは、サッカーやバスケット、カートなどのスポーツが盛んで、子どもたちにも人気がある。巻末には、「将来の夢」など75項目に及ぶアンケート結果が添付されている。

ボスニア（世界の家族 5）

ジュリア・ウォーターロー 著 今西大, 今西智子 訳
鈴木出版 2000年

世界8か国の一般的な家庭の暮らしぶりを紹介した本シリーズの第5巻は、東欧のボスニア・ヘルツェゴビナ。1992年から93年の戦争当時の様子を取り上げているが、ことさらに悲惨さを強調することはなく、平凡な家族の日常生活を淡々と紹介することにより、ごく普通の人間を巻きこむ戦争というものがかえって生々しく感じられる。基本的な国のデータや歴史年表が付されているほか、巻末には参考資料が紹介されているので、調べ学習に役立つ。第4巻*では、東西統一後のドイツがとりあげられている。

*：セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

スイス鉄道ものがたり

宮脇俊三 文 黒岩保美 絵
福音館書店 1995年

姉弟が祖父と共に夏休みに訪れたスイスの鉄道旅行記。写実的な絵で綴られている。岩の山肌にはりつくように急勾配を登るピラトゥス鉄道など、富士山級の山々が900もあるスイスならではの登山鉄道を多数紹介。標高差約千メートルの地域を、山越え谷渡り、ゆっくりと走りぬける氷河急行に、思わず乗りたくなる。車窓から景観を楽しんでいる気分を存分に味わいながら、永世中立国スイスの成り立ちや人々の暮らしぶりを知ることができる。

ロシアの鉄道（鉄道でヨーロッパが見える！ 鉄道で知る各地のくらしと文化）

秋山芳弘 著 こどもくらぶ 編
旺文社 2006年

首都モスクワから、極東の港町ウラジオストクまでのびる世界最長（約1万キロ）の「シベリア鉄道」と、それにつながる中国の「東清鉄道」を実際に乗車し、写真とともに暮らしと文化を紹介した本。日本とシベリア鉄道・東清鉄道との関係や、ロシアと中国の外交史、各々の国の鉄道史などを概説する。巻末に用語解説あり。

絵のあるまちバルセロナ

森枝雄司 文・写真 ながわちひろ 絵
福音館書店 2004年

スペインのバルセロナは芸術の街で、街のいたるところにオブジェ、彫刻、建築物、絵がある。ガウディ、ピカソ、ミロなどの著名な芸術家の作品に街角で出会える楽しい写真絵本。ドラゴンの彫刻が街のあちこちに見られる理由や、クリスマスの風習など、興味深い内容がもりこまれている。

レオナルド・ダ・ヴィンチとミケランジェロ（おはなし名画シリーズ）

辻茂 監修 レオナルド・ダ・ヴィンチ, ミケランジェロ 画
西村和子 構成 川滝かおり 文
博雅堂出版 1997年

絵本で世界の名画を楽しむ「おはなし名画シリーズ」の1冊。この巻では、イタリア・ルネッサンス期を代表する2人の画家の生涯を名画でたどる。「モナ・リザ」などの名画を残しただけでなく、彫刻、建築、科学分野においても多才ぶりを発揮したレオナルド・ダ・ヴィンチ。「ダヴィデ像」などの彫刻で知られる一方、画業においても偉大な業績を残したミケランジェロ。1冊の中に、同時代を生きた芸術家の関係性が垣間見える。大判、総ルビで読みやすい。

子どもに語る北欧の昔話

福井信子, 湯沢朱実 編訳
こぐま社 2001年

北風に粉をさらわれた男の子が、北風のもとに取り返しに行き、粉の代わりにご馳走を出してくれるテーブルかけをもらう「北風をたずねていった男の子」他、北欧5か国の昔話15話を収録。

いちばんたいせつなもの

八百板洋子 編・訳 ルディ・スコチル 画
福音館書店 2007年

バルカン地域に位置するブルガリア、ルーマニア、スロベニア、クロアチア、セルビア、アルバニア、マケドニア、トルコ、ギリシアの

昔話全 29 話を収録した昔話集。オリエントとヨーロッパの文化が混じりあうバルカン地域は、変化に富んだ昔話の宝庫である。本書には、原資料を翻訳した話のほか、著者自らが現地で採録した話が 10 話含まれている。スロベニア生まれの画家ルディ・スコチルの挿絵は、バルカンの雰囲気をよく伝えている。

ロシアの昔話

内田莉沙子 編訳 タチヤーナ・マブリナ 画
福音館書店 1989 年

『おおきなかぶ』（福音館書店）の名訳で知られる内田莉沙子が、編集・翻訳ともに手がけたロシア昔話集。33 編の話は、ロシアの昔話に詳しい編者が、各再話者の特性を知り抜いたうえで、語り口の異なる複数の話の中から選んだもの。国際アンデルセン賞受賞画家のマーヴリナ（マブリナ）が挿絵を添えている。1、2 編ずつ読み聞かせて、子どもたちが耳から親しむようにするとよいだろう。

Сказка об Иване-царевиче, Жар-птице и о сером волке (ロシア語)

イワン王子と火の鳥と灰色おおかみ
Goznak (Гознак) 1994

ロシアの昔話絵本。「イワン王子とはいいろおおかみ」というタイトルで『ロシアの昔話』*1 にも収められている。絵を手がけたのは、ドイツのユーゲント・シュティールとロシアの民間伝承の文化を参考に、**「ビリービン様式」**と呼ばれる独自の華麗な画風を生み出したビリービン。彼は 20 世紀初頭に、当時最良の石版色刷りの印刷技術を持っていた国立印刷所から、『うるわしのワシリーサ』*2『かえるの王女』*3 など全部で 6 つの昔話絵本を出版している。1994 年に刊行された本書では、その挿絵部分のみを用いており、初版本の持つ重厚な雰囲気を伝えている。

*1: セットに含まれております。

*2: 「世界を知るセット」（小学校高学年向）に含まれております。

*3: 「ヨーロッパセット」（小学校低学年向）に含まれております。

ABC sa lilla t (スウェーデン語)

ABC、とちっちゃな t がいった*1

Lena Anderson
Eriksson & Lindgren 1994

スウェーデンの絵本作家レーナ・アンデションによる ABC 絵本。ANKA（あひる）から ödla（とかげ）まで、一つの単語の大文字と小文字が見開きで示される。大文字と小文字に合わせて、大きな物と小さな物が、韻をふんだ平易な文と、素朴で愛らしい絵で表現される。レーナ・アンデションは 1984 年に『マーヤの春・夏・秋・冬』*2（富山房）でエルサ・ベスコフ賞を受賞した。

*1: タイトルは参考訳です

*2: セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

10 ぴきのいたずらねこ

メンシェ・ファン・キューレン 文 ヤン・ユッテ 絵 野坂悦子 訳
朔北社 2002 年

最初は 10 匹だったねこたちが、風邪をひいたり、ケーキを持って逃げたり、石があたったりして 1 匹ずつ減っていくという、オランダの数の絵本。日本の富士山らしき絵の前でおそばを食べるねこも登場し、オランダから見た日本のイメージを垣間見ることができる。絵を描いたヤン・ユッテは、この作品で 2001 年オランダ金の絵筆賞を受賞。

もじゃもじゃペーター

ハインリッヒ・ホフマン さく ささきたづこ やく
ほるぷ出版 1985 年

Der Struwwelpeter oder lustige Geschichten und drollige Bilder (ドイツ語)

Heinrich Hoffmann
Insel Verlag 1985

1845 年にドイツで出版されて以来、ヨーロッパ圏内のみならず、世界中の子どもたちから愛され続けている古典的絵本。ドイツの子どもはみなこの本を読んで育つ、と言っても過言ではない。一見すると「少々刺激の強すぎる」教育的絵本のようにも見えるが、いたずら心いっぱいのあるままの子ども姿が、デフォルメされた素朴な線画

で描かれており、不思議と子どもたちの心をとらえてはなさない。表題作はじめ、軽快な韻文の 10 編の作品からなる。

コールデコットの絵本（オリジナル復刻版）

福音館書店 2001 年

19 世紀イギリスを代表する挿絵画家ランドルフ・コルデコット（コールデコット）が出版した木口木版による多色刷り絵本全 16 冊の複製版。コルデコットの絵本は近代絵本の基礎となったと評価され、後世の絵本作家に多大な影響を与えた。アメリカでは、優れた絵本に贈られる「コルデコット賞」が 1937 年に創設された。

国際子ども図書館ホームページ

(<http://www.kodomo.go.jp/gallery/picturebook/index.html>) ではコルデコットの絵本の 9 作品の画像を、朗読つきで楽しむことができる。

The House that Jack Built

ジャックがたてた家

マザーグースの中でもよく知られている「積み上げ」唄。動物の獲物を追う際の緊張感、人間の喜怒哀楽の表情を見ていると、文がなくても意味が伝わる。なお、『マザー・グースのうた 1』*に収録されているので、合わせて読むとよい。

*: セットに含まれております。

Ride a-Cock to Banbury Cross

棒馬にのってバンベリー・クロスへ

これもマザーグースで、大人が幼児をひざにまたがらせ「ハイシドードー」とゆすってあやす際や、子どもが玩具の棒馬にまたがって歌う際の遊び唄として愛唱される。ふだんは平穏で単調な田舎町が、美しい姫君のお出ましでにわかには活気づく。そのハレの日を、コールデコットはユーモア交えて描く。なお、『マザー・グースのうた 1』*に収録されているので、合わせて読むとよい。

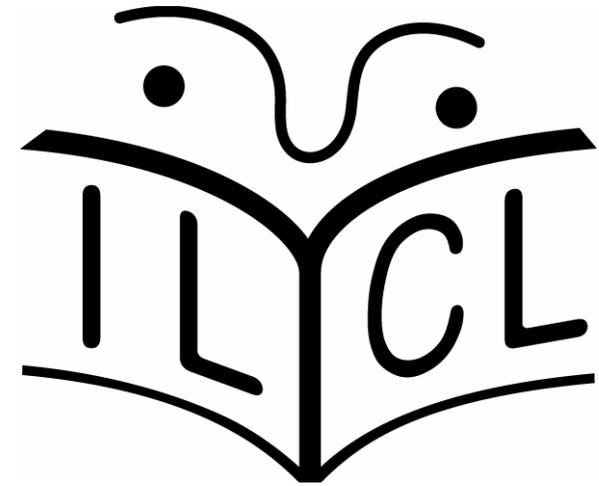
*: セットに含まれております。

マザー・グースのうた 1

谷川俊太郎 訳 堀内誠一 画

草思社 1975 年

イギリスのみならずアメリカなど英語圏の国で広く親しまれているわらべ唄、マザー・グース。マザー・グースのフレーズは、古今より文学作品の中で多く引用され、また人々が日常的に使う言葉のはしはしにも顔をのぞかせる。本書は日本におけるマザー・グースの訳者として定評のある詩人谷川俊太郎が訳したもの。巻末に英文あり。



子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 企画推進係
〒110-0007
東京都台東区上野公園 12-49
TEL : 03 - 3827 - 2053
URL : <http://www.kodomo.go.jp/>

2007年12月

※この冊子は返却する必要はありません。